

(別紙様式)

# 令和4年度学校自己評価システムシート ( 県立大宮北特別支援学校 )

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 児童生徒が明るく、豊かに、たくましく成長し、社会にはばたく力を身に付けられる学校 |
|--------|--|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 新学習指導要領の趣旨及び国の「GIGAスクール構想」を踏まえ、ICTの効果的な利活用を進めるとともに、一般学級・重複障害学級の教育課程の特徴をより明確にする。<br>2 安心安全で、わかりやすく、より豊かな学びが実現できる学習環境を整備する。<br>3 学校運営評議会（コミュニティスクール）の令和5年度導入に向けた準備を進める等、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 |
|------|---|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者    | 4名 |
|     | 生徒       | 4名 |
|     | 事務局(教職員) | 4名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 |  |                                       |   |  |   |   |
|-------------|--|---------------------------------------|---|--|---|---|
| 年 度 目 標     |  |                                       |   |  | ( 2 月 1 日 現 在 )   |   |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目                                  | 具体的方策   | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況   | 達成度 次年度への課題と改善策   |
| 1           | 「1人1台端末」をいかに効果的に活用していくか、研究と実践の積み重ねが必要である。<br>教職員の「深い学び」についての理解を深め、各授業に反映させていく。<br>教室数が限られ、一般学級と重複障害学級が1つの教室を使っているところが多いこともあり、一般学級と重複障害学級の教育課程のちがいが明確になっていない。 | ICTの効果的な利活用と「主体的・対話的で深い学び」の観点に基づく授業改善 | 各教職員が「ICTの利活用」を加味した実践に取り組む。 【全教職員】                                  | 80%の教職員の自己評価シートに「ICTの利活用」についての内容が盛り込まれ、実践されたか。                           | 全校的にICTを活用した実践が展開された<br>・70%の教職員の自己評価シートに「ICTの利活用」についての記述が盛り込まれ、実践された。                                  | A<br>効果的な活用事例の集約、新たな教材開発、他校の先進事例についての情報収集に組織的に取り組めるとよい。   |
|             |  | 一般学級・重複障害学級それぞれの教育課程の特徴の明確化           | 各学部で、重複障害学級の教育課程（特に日課表、等）を再検討する。 【各学部】                              | 一般学級・重複障害学級の教育課程のちがいがより明確になり、次年度の教育課程に反映されたか。                            | 各学部で、一般学級と重複障害学級の教育課程のちがいで、計画的に協議が進められた。<br>・各学部とも、次年度に向け、重複障害学級の教育課程や指導内容を見直した。                        | A<br>限られた教室数、狭隘な学習環境の中で、一般学級・重複障害学級が、それぞれの教育課程に基づき、いかに効果的な指導を展開できるか。どんな工夫ができるか。                   |
| 2           | 増築校舎も含めた施設設備の効果的な活用、放課後デイサービス車両の停車位置や動線、災害時の避難経路等について、総合的な検討とプランの策定を行い、全校的な共通理解を図る必要がある。<br>各教室や廊下等の掲示物精選と整理をさらに進める必要がある。                                    | 限られた施設設備の有効活用と災害時の対応                  | さらなる児童生徒増も見据え、限られた施設設備をどのように有効活用していくか、災害時の対応も含めて計画的に検討する。 【管理職、企画委】 | 令和5年度に向け、施設設備の適切な活用計画（教室配置、等）が策定できたか。                                    | 限られた施設設備の中、各学部にとって適切な教室配置を行うのは至難である。<br>・各学部の意向をふまえながら、教室配置を行った。<br>・防災部による計画的な防災訓練で、全校的に落ち着いた避難行動ができた。 | B<br>上記に加え、日々の児童生徒の安全をどう確保していくか、全校的な配慮・工夫・緊張感が必要である。災害時の対応は、引き続き、計画的な訓練を行うとともに、登下校時の対応について検討を進める。 |
|             |  | 物理的環境整備・言語的環境整備と効果的な視覚支援              | 児童生徒の実態や障害の特性を踏まえて、過剰な視覚刺激・過剰な言語刺激を減らし、適切で効果的な視覚支援を活用する。 【各学部、研究部】  | 掲示物の精選やわかりやすい掲示、適切で効果的な視覚支援を進めることができたか。<br>教職員の共通理解は深められたか。              | 同内容を学校研究のテーマとし、全校で取り組むことができた。<br>・研究部のリーダーシップの下、各学部で具体的な研究が進められた。<br>・研究に終わらず、各教室の環境改善に反映された。           | A<br>今年度の研究と実践の成果を十分に全校で共有し、日々の指導や学習環境の整備にさらに反映させていく。   |
| 3           | 学校運営評議会（コミュニティスクール）についての研修は重ねてきているが、まだ具体的な形になっていない。<br>ここ数年、新型コロナウイルスのこともあり、地域への情報発信や外部資源の活用が十分に行えていない。<br>昨年度、高等部で生徒会が発足した。                                 | 学校運営評議会（コミュニティスクール）の導入                | 令和5年度導入に向け、計画的に準備・協議を進める。 【管理職、企画委、その他】                             | 令和5年度から学校運営評議会（コミュニティスクール）を導入する準備が完了したか。                                 | 令和5年度からの学校運営協議会（コミュニティスクール）導入について、全校的な共通理解が進んだ。<br>・年度末までに「要綱」や人選についてまとめる。                              | B<br>「社会に開かれた教育課程の実現」の観点から、学校運営協議会（コミュニティスクール）をうまく活用していく。   |
|             |  | 地域へのより積極的な情報発信と外部資源（人的・物的）の活用         | 校外での作品・製品展示や美術展への出品等、学習活動の成果を校外に発信する。 【各学部】<br>さいたま西分校との交流促進        | 校外での作品・製品展示や美術展への出品等、学習活動の成果を校外に発信する。 【各学部】<br>さいたま西分校との生徒会交流を進める。 【高等部】 | 新規に、地域への情報発信や外部資源の活用ができたか。<br>さいたま西分校との生徒会交流が複数回できたか。   | ・「パラ・ミュージアム in OMIYA」その他、美術展への新規出品を行った。<br>・本校とさいたま西分校の生徒会交流を数回、行うことができた。                         |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 学校関係者評価           | 実施日 令和5年2月16日  |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ICT活用が定着してきている様子が見えてくる。主体的に学べるような活用を実践してほしい。<br>教科別の指導の充実は、今後も継続してほしい。<br>新学習指導要領を検証する時期に係ってきている。各学部において指導目標や指導内容の見直しもできるとよい。<br>防災訓練については、今後とも継続して、ケースを変えた訓練を行ってほしい。<br>研究テーマの「物理的環境整備」については、教室の構造化などさらに検証し、よりよい環境づくりに取り組んでほしい。<br>来年度から、学校運営協議会（コミュニティスクール）として、運営方法が変化していくが、学校運営の力になれるように参加していく。 |